

Bazaar

Harper's

ハーバース バザール
2020年9月号

the
POWER of
CREATIVITY

創造の力を信じて
クリエイター
52人の作品集

NEED TO CHANGE

誰にもやさしい
社会への一歩

FOR THE LOVE OF LIFE

愛するものたちと
ともに歩む

Christy Turlington Burns

Voices of
HOPE

希望の歌が聞こえる

the POWER of CREATIVITY

世界を照らすクリエイティビティの力

私たちが大好きなアーティスト、デザイナー、作家たち32人が

逆境からインスピレーションを受け、世間から切り離された状況の中で制作した
オリジナル作品を集めたポートフォリオ。豊かな感性が、光と希望のありかを示す。

素晴らしい芸術作品が往々にして危機的状況の中で生まれるのは特筆すべき事実だ。ゴッホは生涯で最も称賛された作品のひとつ、「星月夜」をうつ病で治療中の精神科で描いた。フリーダ・カーロは瀕死の重傷を負ったバス事故から生還した後に初めて絵筆を取った。ピカソが「ゲルニカ」を描いたきっかけはスペイン内戦中の無差別爆撃だった。ヴァージニア・ウルフは小説『灯台へ』の中で亡くなった母親に命を吹き込んだ。心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と逆の心的外傷後成長 (PTG: Post Traumatic Growth) は、心理学者らからしっかりとされた裏付けを得ている現象だ。人生における確実性がひっくり返り不確かになったとき、自分自身の死に直面したとき、人は自身の創造性における境界線を越えたところを探求することがある。COVID-19によるパンデミックが起きたこの世の中で、私たちはすでに柔軟な考えをもとに反応した多くの例を見ている。早急にワクチンを開発するためにこれまでの手順や慣習を無視して作業にあたる科学者。ファッション界のラグジュアリーブランドは服の生産を止め、消毒液やマスク、防護服の製造を始めた。この危機的状況を理解するために、また誰かを元気づけるために、芸術面で貢献した人々もいる。これもとても大切な反応のひとつ。マリーナ・アブラモヴィッチがこの特集の中で指摘している通り、マティスは第2次世界大戦の恐怖に耐えるために花の絵を描いた。「マティスにとって、当たり前のことと美しいものに気持ちを向けることが賢い選択だったのでしょう」とアブラモヴィッチは言う。数週間前、私たちは世界的に有名なアーティストやデザイナー、作家たちに、この時代に対する彼ら独自の表現や作品を求めて声をかけようと決めた。次のページから紹介する数々の作品は、今号の「ハーバース バザー」誌のためだけに制作され、書かれたものだ。それぞれが喜びにあふれ、力強く、痛烈で、深い。それぞれの作品は作者ひとりひとりの心の中を反映しており、私たちみんなにとっての人類の歴史におけるとてつもない時期に光を当てる助けになっている。

リディア・スレーター (『ハーバース バザー』UK版編集長)



AI IWANE

A New River

岩根 愛 / 写真家 「あたらしい川」(2020)

新たな境界に閉ざされたこの春、灯りが消されても淡く白く、発病するかのように狂い咲く桜の森を、春還した獣たちが一斉に集い、歓喜の呻きをあげていた。かれらが取り戻した暗闇には、あたらしい川が流れている。